

和地ひとみレポート No.167

市の事業を市民感覚で評価「H27年度 事務事業評価における外部評価会議」 率直に伝えた市民・民間の感覚を活かしてほしい

■事務事業評価における外部評価会議

…7月22日(水)、23日(木)、24日(金)、28日(火)の午後、『平成27年度事務事業評価における外部評価会議』が開催されました。これは、会議の表題どおり、市の行っている事務や事業について市役所内の担当課による自己評価だけで方向性を決めるのではなく、外部＝市民や民間の視点を把握して、将来的な事務事業の方向性を判断する際に参考にするためのもの。平成24年度から試行として開催されたこの会議は、その効果が認められ、平成26年3月28日に市長決裁された東大和市行政評価実施要綱の第5条に規定されている「市民や民間の視点を把握すること」を目的として正式に設置することが決定されています。一部ではこの会議の方式は「東大和モデル」と呼ばれ、取り組みについては市外からも評価を得ている状況です。…今回の会議では、大崎映二氏（一般社団法人日本経営協会専任講師／行政アドバイザー。民間企業を退職後、東大和留米市役所に入庁。水道部、市民部、都市計画部、監査事務局、福祉部を経て、障害福祉課長、会計課長、財政課長、企画調整課長、子ども家庭部長、教育委員会教育部長を歴任し、07年に退職）をコーディネーターとし、7名の外部評価委員で以下の事務事業について意見を出し合い、最終的な評価＝対象事業を廃止・休止すべきか、もしくは継続するか（その場合は拡大か、現状維持か、縮小化すべきか）を決定していきました。

【H27年度事務事業評価における外部評価会議で とりあげた事務事業】

- ①老人福祉館運営事業(老人福祉施設貸出事業)
- ②地区集会所管理事業
- ③学習等併用施設(地区会館)管理事業
- ④市民会館(ハミングホール)管理・運営事業
- ⑤災害時要援護者対策事業
- ⑥学校プール指導補助員配置事業
- ⑦習熟の程度等に応じた少人数学習指導員配置事業
- ⑧各種検診事業(法定外検診)
- ⑨道路清掃事業
- ⑩老人福祉電話貸与及び電話料助成事業
- ⑪敬老金支給事業
- ⑫桜が丘図書館の運営
- ⑬コミュニティバス運行事業
- ⑭こうみんかんだよりの発行(視覚障害者用テープ含む)
- ⑮公園管理事業
- ⑯農業振興対策事業

■外部評価委員は？

…さて、この外部評価会議の外部評価委員ですが、開催要綱では「市長が指名した者4名」「市民による公募の者4名」の計8名とされています。今回は、過去の外部評価委員経験者や市内で活動されている方などから「市長が指名した者4名」を選出。公募については無作為に選んだ300名の市民の方に案内を送り、応募のあった3名を「公募による市民の評価委員」としました。…この案内を送付した「無作為に選んだ市民」については、住んでいる地域が偏らないこと、20代～70代まで年齢が偏らないようにすることなどに留意して選出したとのこと。定員は4名でしたが残念ながら3名のみのお応募だったため、今回の外部評価委員の人数は7名となりました。



■評価する事務事業の決め方は？

…左記のとおり、今年度の会議では16の事務事業がこの会議の対象事業となりました。東大和市では毎年度、行政評価という形で各担当課が実施した事業について自己評価を行い、ホームページなどでその結果を公表しています。…平成26年度の行政評価については、平成25年度に実施した514の事務事業について「平成25年度の仕事の振り返りシート」を活用し、事務事業の目的を明確にした上で、現状の把握、課題の振り返り等を行い、今後の方向性が検討されています。…この「振り返りシート」のある事業の中から、外部評価会議で取り上げる事業は選ばれますが、その選び方については「法定受託事務(法令でやることが決めている事務)」「過去にこの会議で取り上げている事務事業」「論点が少ない事務事業」は除くとのこと。ただし、市民の関心が高い事務事業、論点の多い事務事業については過去に取り上げていても対象にするとのことでした。…また、外部評価委員に選ばれた方には対象となる事務事業の一覧表が渡され、取り上げたい事業がある場合は申し出ることもできるとのこと。今年度の外部評価会議でも、評価委員の方が希望した事務事業がいくつか対象として挙げられています。(裏面に続く)

■活発な議論

…この外部評価会議は、傍聴が可能です。今回4日間行われた外部評価会議のうち、2日間、私は傍聴しました。会議の進め方としては、ひとつの事務事業に対する制限時間があり、その事業について評価が行われる日時がタイムテーブルで公表されています。各事業については担当課から事業の振り返りシートをもとに目的、事業の対象者、効果、課題などについて説明があり、そのあとは、コーディネーターである大崎氏の進行で、自由に委員の方が質問や提案、意見などを発言していきます。…発言内容の概要はその場で記録され、全員が確認出来るようにプロジェクターで表示。様々な価値観の方が自由に発言をされる場なのですが、各委員の方は、たとえ反対意見の方がいたとしても、その意見を尊重した上で、ご自身の意見をきちんと述べられており、充実した内容になっていました。また、傍聴人についても議員も何人かおりましたが、市民の方も興味のある事業についてはタイムテーブルを確認して傍聴にいられているようでした。

私が傍聴をした24日に取り上げられた「コミュニティバス(ちょこバス)運行事業」は、特に関心が高い方が多いようで、傍聴席は満席という状況でした。

■“なるほど”という提案も

…例えば、私が傍聴をした「敬老金支給事業」。これは、毎年9月15日現在、77歳・88歳・99歳の方へ5,000円を支給するというもので、昭和53年4月1日から施行された条例によって行われている事業です。私自身、決算特別委員会、予算特別委員会などで、この事業に対する疑問を市に伝え、「敬老の意を表わす」という事業の目的と現金を支給するという事業内容に違和感を感じ、変更を求めてきました。

…今回の外部評価委員の皆様には賛成、反対の両方の立場の方がおり、様々な意見が出ていました。「平均寿命が男女ともに80代になっている今日において、77歳というのは市が特別にお祝いをする年齢ではないのではないか。88歳からが良いのではないか」「貰えるということなら、貰えないよりは良いと思う人は多いと思うが、5000円という現金をもらって本当に嬉しいのか」「変な記念品より現金の方が良いのではないか」「辞退する人はいないのか」などの意見が様々出て、会議の雰囲気はすぐに廃止するのは気が引けるが、内容を見直すべきという雰囲気になりました。そんな中「選択性にするのはどうか」というアイデアが出たのはとても良いことだと思いました。

…この「選択性」のアイデアを出された評価委員の方によれば、対象の市民の方に「現金が良い」「教育事業に寄付して欲しい」など、自身の敬老金の使い道を選べるようにすれば良いというもの。

確かに、5000円を貰って嬉しい方もいれば、5000円を子育てや自然保護、もしくは高齢者福祉事業など市政に活かして欲しいと考えている方がいることも事実です。支給された5000円を自身で寄付するということは手間のかかること。支給時に選択できる制度を設ければ、結果として現金を受け取る方が多かったとしても、対象となる市民の方の考えもわかつていきます。

…もし選択性にした場合は、行政で活かして欲しいという方のための受け皿として、市では様々な基金(特定の目的でのみ使うための貯金)を新たに設置しなければなりません。しかし今後、対象となる方が増加する傾向のなか、市政への市民参加のひとつの方法として検討すべきことではないか。また、子育て、教育、自然保護、高齢者日常が便利になる施策などのため「生きたお金の使い方」を実現させるためにも、このアイデアは検討するべきだと思いました。

…この他の事業に関しても、行政ではなかなか気づけない、もしくは躊躇するような改善策、アイデアが外部評価委員の皆様からは多く出ていました。そして、日常感じている市民ならではの様々な問題、疑問も多く出ており、これらの外部評価の結果を、市は大いに参考にして欲しいと思いました。ちなみに、今回の会議の各事業に対する委員の皆様の見解、最終的な事業評価の一覧は秋に公表される予定とのことです。

■もう一步、進めるとしたなら

…前述のように外部評価会議の設置は「東大和市モデル」として評価されているところです。この外部評価会議で出てきた意見を参考に、事務事業内容を改善、変更することにより、さらにその効果が明らかになると思います。その結果「市民の声を活かした」「実に即した」事務事業の実現が可能となると思います。

…一方で、このような良い取り組みに様々な年代の方の意見を取り入れる仕組みも必要。今回の公募の委員については20代~70代の方に案内を送ったとのことですが、平日の午後に開催される会議への出席は、現役世代、子育て世代の方の参加は困難だと思います。様々な世代の意見を汲み取れる工夫をすれば、この東大和市の良い取り組みを、もう一步進めることができると思いました。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

【プロフィール】



1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。/「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。/『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。顔の見える議員として、日々奮闘中。

東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102